

ハウスの 地元工務店の生きる道 地道な経営に信頼厚く

注文住宅メーカーの相次ぐ破綻で、住まいづくりのパートナーを選ぶ消費者の目が厳しくなっている。その一方、年間着工は10棟以下でも、堅実な仕事と個性で信頼を得てきた地元工務店が見直され始めている。今回紹介する高崎市のハウスの清水光成社長も、デザイン性は高いが主張しすぎず、どこか懐かしい雰囲気のある家を創り続け、着実にファンを増やしている。

お客さんに引き渡したという気持ちが強くなり、それが地道な経営姿勢に表れているようだ。また、変化していく家をつつと見守っていきたいという思いから、建てた後も信頼関係を大切にしており、オープンハウスのたびに多くのO/C客が駆け付け、光景が見られるという。

現在会社では、清水社長と専務の岩上麻緒氏、設計担当の岩上桃子氏の3人で、県内エリアをメインに年間4〜5棟の個人住宅を手がけている。モデルハウスを持たないため、営業はホームページが大きなウエイトを占める。

今後大幅な受注増を取り納得のいく仕事を、と

基本的なスタンスは変わらないが、「工務店もやることをやっていたらいいと生き残れない」と清水社長。太陽光発電システムへの搭載や長期優良住宅への対応など、乗り遅れないように挑戦している。

30、http://www.kan
設立1988年5月
資本金1000万円
事業環境・建築・インテリア/企画・デザイン・施工
環境計画EPOS

きたい」と意欲を見せたい。■(株)ハウスのDATA
所在地 市中央町2-4
高崎 0135-7137
6431-602
7137
2119



(左から) 岩上麻緒氏、岩上桃子氏、清水光成社長

同社の家は、シンプルかつ住みやすさを追求しながら、どこに建ついてもひと目で「ハウスの」とわかるような存在感の光るデザインが特長だ。自然素材にこだわらず、コンバクトで予算内に収まる家が建てられるとあって、特に20代後半から30代のファミリー層の人気の高い。また、アレルギー体質の人からも支持されている。

木材は下仁田町のかぶら材をベースに、スウェーデン産のレッドパインを多用。断熱材は調湿性能に優れ、シックハウスの対策にもなる羊毛(ウール)ブレンドを採用している。

室内の仕上げには有害物質を徹底的に排除した水性塗料や、100%再生紙に端材・間伐材を利用したウッドチップをすき込んだ壁紙を使用。建具もオリジナルで作っている。

外装は、火山灰土から作られる白州そとん壁を目でチェックしてから、

多く手がけており、耐久性の高いガルバリウム鋼板との組み合わせも人気があるという。いずれも扱いが難しく、自然素材だが、施工員らが簡単にメンテナンスできるよう配慮されており、施工も同社と10年以上の付き合いがある職人集団が担当するので安心だ。

清水社長も、もともと「は同社の現場で活躍していた大工の棟梁。社長に就任した今でも、自分の目でチェックしてから、



ハウスの施工例。存在感のあるデザインが特長

群馬建設新聞
2009.7.15 (6面)

の会、日本パビオロギー研究会員